

4916 大きな冒険：残像・映画「シェルブールの雨傘」

高校時代、スポーツクラブとは別に、映画部に所属していた。
戦争で引き裂かれた悲しい恋の物語。ミッシェル・ルグランの切ない音楽も耳に残っている。
当時フランス映画は珍しい。カトリーヌ・ドヴューヌ、初主演、「シェルブールの雨傘」
ミュージカル映画のファーストシーン、雨がポツポツ落ちてきて、
やがて、色とりどりの傘が美しい花のように舞う。**セリフのすべてが歌で構成。**

戦争、失恋、思い通りに行かない世の中。

2017年12月～2018年1月、1ヶ月間、パリ取材。新聞「フィガロ」を1月15日、購入。
カトリーヌ・ドヴューヌの写真が第一面に。ニューヨークタイムスにも。



ご縁。シェルブール、距離的にも、今一度、再訪したかったが、
夢と現実、食い違ふことが多い。映画の世界ではないが、このままそっとしておくのも
いいのかもしれない。旅も人生もいろいろあって当然。霧の中へ消えるもよし。
夢は、いいように描ける。現実、ノンフィクション。厳しい。

当時の映画のワンシーン。

雨が降れば、レンガを敷きつめた舗道がしっとりと濡れて。

パリ、サンザラル駅から、1時間半の距離。

コタンタン半島のつけ根の海岸線が、ノルマンディ上陸作戦、激戦地の跡。

夢を描くのも、人生の楽しみ方の一つ。



下記は、霞む、フランス・モンサンミッシェル。

天候が今ひとつだったが、モンサンミッシェルの頂上から、眼下を、

今は、表現する言葉が見つからないが、心に残っている。

